

## はじめに

保健環境科学研究所は、県内の保健衛生・環境分野の科学的・技術的中核機関として、県民の健康と地域の環境を守るための調査研究に取り組むとともに、公衆衛生情報の収集解析及び情報発信を行っています。

また、行政各課からの依頼による感染症検査、食中毒検査、食品中の残留農薬検査、医薬品検査、大気汚染常時監視、大気中アスベスト、公共用水域及び産業廃棄物処分場排水等の試験検査を行っています。

調査研究においては、継続している課題に加え、微生物関係では国際的に大きな問題となっている薬剤耐性菌の保有状況調査を実施するとともに、環境中における薬剤耐性菌についてモニタリング調査を開始しました。

食品衛生関係では、健康危機管理体制の強化を図るため、自然毒食中毒の原因の多くを占める毒キノコについて、簡便で迅速な一斉分析法を検討しました。

環境分野では、微小粒子状物質（PM<sub>2.5</sub>）について PMF 法を用いた発生源の解析を行い、得られた成果を各種学会や学会誌において発表を行いました。

今後とも、社会情勢の変化や地域のニーズを的確にとらえ、多様な課題に対して即応的に調査研究に取り組み、研究所としての使命を果たしていきたいと考えています。

また、東京オリンピック・パラリンピックの開催を来年に控え、海外からの感染症をはじめとした様々な危機管理への対応が最重要課題となっていることから、専門知識や検査技術の取得及び平時からの検査体制の充実・強化に取り組み、地域の科学的・技術的拠点として機能できるよう国の機関や地方衛生研究所等と連携・協力を図りつつ業務を遂行してまいります。

今般、平成 30 年度の当研究所における試験検査及び調査研究の成果をとりまとめました。

関係者の皆様には、是非、御活用いただくとともに、忌憚のない御意見を頂戴できれば幸いです。引き続き、関係各位の御支援及び御協力を賜りますようお願いいたします。

令和元年 1 1 月

熊本県保健環境科学研究所

所 長 樋口 義則